

初回急性冠症候群患者の院内死亡の危険因子を検討する後ろ向き研究に関するお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成 30 年 4 月 2 日 ～ 平成 32 年 12 月 31 日

〔研究課題〕 初回急性冠症候群患者の院内死亡の危険因子を検討する後ろ向き研究

〔研究目的〕

日本人における第2番目の死亡原因は、急性冠症候群に代表される心血管疾患であります。この急性冠症候群を発症した患者さんに対する管理・治療として、専門病棟の創設、治療薬物の創生や治療機器の改良など、様々な取り組みが行われてきました。その成果もあり、今日においては急性冠症候群による死亡率を 5%台まで改善する事が可能となりました。しかし、未だに急性冠症候群に罹患した場合、死亡率を 0%まで改善させる事が出来ておりません。

今後日本は未曾有の高齢化社会の到来により、急性冠症候群を発症する患者さんは増加してくるものと思われれます。このため、急性冠症候群を発症した患者さんの死亡と関連する要因を調査し、今後の医療に役立てる事は非常に重要であります。

本研究の目的は、急性冠症候群を発症して当院に搬入された患者さんの既存の検査・治療データを用いて、入院中死亡となった危険因子を検証する事です。

〔研究意義〕

未だ死亡率が 5%程度ある、急性冠症候群を発症した患者さんの院内で死亡する危険因子を解析する事で、今後の初期治療の内容の変更や、急性冠症候群発症前段階での予防治療に影響を及ぼす事が出来ると期待されます。

〔対象・研究方法〕

当院において 2013 年 8 月から 2017 年 3 月まで、急性冠症候群と診断された全ての患者さんが対象となります。来院時の身体所見や各種検査(採血、心電図、胸部レントゲン、冠動脈造影検査や治療)等を組み合わせ、入院中に死亡してしまう予測因子を後ろ向きに検証します。既存の検査データを用いるので、新たな検査・診察は必要としません。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部内科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

「臨床研究における記録保管に関する標準業務手順書」に従います。研究に携わる関係者は被験者の個人情報保護に最大限の努力をします。研究責任／分担医師は、匿名化したデータを用い、個人を特定できる情報(氏名・住所・電話番号など)は記載しません。研究責任医師は、当該臨床研究の実施に係る記録(文書および電子記録)を研究終了後循環器内科研究室に 10 年間保存し、その後破棄いたします。

〔その他〕

本試験は、後ろ向きの疫学調査であり、患者さんへの経済負担や支払いは生じません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部内科学講座 助教 山本裕貞

研究分担者: 帝京大学医学部内科学講座 教授 上妻謙

帝京大学医学部内科学講座 准教授 横山直之

帝京大学医学部内科学講座 講師 興野寛幸

帝京大学医学部内科学講座 講師 渡邊雄介

帝京大学医学部内科学講座 助教 大槻修司

帝京大学医学部内科学講座 助手 中島真

帝京大学医学部内科学講座 助手 川嶋秀幸

帝京大学医学部内科学講座 大学院生 名倉福子

帝京大学医学部内科学講座 大学院生 高村慎太郎

帝京大学医学部内科学講座 大学院生 岡部竜太

帝京大学医学部内科学講座 大学院生 寺田悠紀子

帝京大学医学部内科学講座 大学院生 片山大河

帝京大学医学部内科学講座 大学院生 高橋慎司

帝京大学医学部内科学講座 大学院生 佐々木和哉

帝京大学医学部内科学講座 大学院生 石橋瑠璃

帝京大学医学部内科学講座 大学院生 行光望

住所: TEL:03-3964-1211 (代表) [内線 30415]